巻頭言

所長就任挨拶

HAMAOKA Takafumi
所長　濱岡　隆文

この度、村上前所長の後を受け４月１日付で動物衛生研究所長を拝命いたしました。独立行政法人として10年目の節目を迎え将来に向けた新たな戦略を策定していくこの時に、多くの先達が築きあげた輝かしい歴史と伝統を受け継ぐ動物衛生研究所の舵取りを仰せつかり、その責任の重さを痛感しております。

動物衛生研究所は、いうまでもなく、動物の衛生問題の改善を通じて畜産の持続的発展に寄与し、健康な家畜を育て、健全な畜産物を生産することで公衆衛生の向上にも貢献することを使命としています。このため、「生命（いのち）あるものを衛る」をスローガンに掲げ、動物疾病に関する基礎研究から疾病の診断、予防、治療にいたる技術開発研究を実施しています。そして、優れた多くの研究から生み出された技術や知見の集積を基礎として「研究所の底力」を培い、病性鑑定、内外の獣医技術者への研修・講習、国内の家畜防疫に不可欠な診断薬等の生物学的製剤の製造・配布などの業務を社会的責務として担い続けております。

1891年に農商務省仮試験場に獣疫研究室が設置されて以来120年の間、制度や組織は幾多の変遷を経ていますが、当研究所が担ってきた使命は独立行政法人化した現在も変わりません。それどころか、近年の牛海綿状脳症や高病原性鳥インフルエンザの出現を代表として、動物の病気の制圧が公衆衛生上極めて大きな意味を持つ人獣共通感染症事例が増加し、動物衛生研究所が果たしてきた役割、機能への社会の期待はますます大きくなっています。

一方で、長引く財政危機を背景として、独立行政法人の更なる効率的運営を含めた抜本的な見直しが社会から求められています。先行きが不透明な中にあっても、私たち動物衛生研究所は、いつの時代にも変わることなく必要とされる動物衛生研究の役割や機能の唯一の担い手として社会から認められるために、仮試験場獣疫研究室に始まり獣疫調査所、家畜衛生試験場、そして動物衛生研究所とつづく歴史と伝統を受け継ぎ、職員一人一人が自立し、自己研鑽に励み、互いを認め合い、切磋琢磨しながら、動物を守りヒトを守るものとして社会の発展に寄与し、輝く未来に向かって挑戦する組織でありたいと考えています。

全国の動物衛生関係者並びに諸先輩の皆様のご支援、ご協力をいただきながら、職員が一丸となって効率的で活力のある研究所を目指し、非力ではありますが自身の職責に全力を尽くす覚悟でございます。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成22年４月20日に宮崎県下にて口蹄疫の発生が確認され、全国の関係者が支援する中、現地では懸命に防疫が行われています。動物衛生研究所は緊急病性鑑定、疫学調査、技術的助言、現地での防疫支援等、全職員一丸となって防疫支援に当たっており、一日も早い終息に向け責務を果たしていく所存です。